

2023年度以降入学生用 常磐大学 人間科学部 教育学科 中等教育コース 履修系統図(図形式)【ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと各授業科目の対応関係】

建学の精神 実学を重んじ真摯な態度を身につけた人間を育てる。

教育理念 自立・創造・真摯

学科の教育研究上の目的 (1)中等教育段階の生徒の成長および発達への深い理解の上に、優れた専門の学術および技能を身に付けた豊かな識見ならびに信頼される有為な資質および新しい教育課題に適切に対応できる能力を備えた教員を養成する。
(2)中学校教育および高等学校教育の一貫した中等教育の学校教育制度の理念を志向した、理論および実践の統合に向けた教育研究を行う。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (教育課程編成・実施の方針、カリキュラム・ポリシー)		授業科目				卒業の認定に関する方針 (卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)	
		1年次	2年次	3年次	4年次		
(2) 実施方針	(1)編成方針 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)で掲げた人材養成の目的を達成するために、教育活動を担うにあたり必要となる基本的資質・素養、および高度専門職としての教育者に求められる力量の修得に向け、また中学校教諭一種免許状(社会)および高等学校教諭一種免許状(地理歴史)の取得要件を満たすためのカリキュラムを体系的に編成します。			人間科学概論		1.教育活動に必要な社会人としての素養、及び、教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解・態度) 2. 生徒の心身の発達、いじめの実際、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解・態度) 3. 特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能) 4. 学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を伴う授業力を身につけている。(知識・理解・技能) 5.学級経営を理解し、学年や学級を経営する力を身につけている。(思考・判断) 6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)	
	(2)学科共通科目では、教員や自治体・民間機関等の職員等、社会におけるさまざまな教育活動の担い手となることを見据え、「教育者への道Ⅰ・Ⅱ」「AI・データサイエンスと教育」「地域学校協働論」等の授業を通して、現実の課題に対応するための思考力や表現力を高める教育を行います。		英語Ⅳ 英語Ⅵ	生涯学習学概論 地域学校協働論 教育の現代的課題 地域教育探究			
	(3)教育の基礎的理解に関する科目等では、教育の基礎的な理解を身につけるとともに、生徒への働きかけに必要な知識や技能を身につけるために、「教育学概論」「教職入門」等の授業を通して、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行います。	教育社会学	発達心理学 学校と教育の歴史 教育行政・制度・経営論	教育哲学			
	(4)道徳、総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目等では、道徳教育・教育相談に必要な知識や技能を身につけるために、「総合的な学習の時間の指導法」「生徒指導・教育相談」等の授業を通して、多面的多角的な考察を取り入れた教育を行います。	特別支援教育の理論と実践 道徳教育の理論と実践 生徒指導・教育相談	総合的な学習の時間の指導法 特別活動論 進路指導論				
	(5)教科に関する専門的事項では、社会科・地理歴史科の専門的な内容を学び、専門的な知識を身につけるために、「日本史Ⅰ・Ⅱ」「人文地理学Ⅰ・Ⅱ」等の授業を通して、問題解決・探求型の教育を行います。	東洋史Ⅰ 東洋史Ⅱ 西洋史Ⅰ 西洋史Ⅱ 地域研究入門 地誌 法律学(国際法を含む) 政治学(国際政治を含む) 経済学(国際経済を含む)	地域研究(アジア)Ⅰ 地域研究(アジア)Ⅱ 地域研究(アメリカ)Ⅰ 地域研究(アメリカ)Ⅱ 地域研究(ヨーロッパ)Ⅰ 地域研究(ヨーロッパ)Ⅱ 哲学概論 倫理学概論				
	(6)各教科の指導法等では、社会科・地理歴史科の専門的な知識を基盤として社会科・地理歴史科の教え方を学び、実践的指導力を身につけるために、「中等社会科・地歴科教育法Ⅰ・Ⅱ」等の授業において、ICTの活用や模擬授業に重点を置いた教育を行います。	中等社会科・地歴科教育法Ⅰ 中等社会科・地歴科教育法Ⅱ 中等社会科・公民科教育法Ⅰ 中等社会科・公民科教育法Ⅱ	ICT教育の理論と方法				
	(7)教育実践に関する科目等では、実習校での教育実習を行うとともに、教員採用試験等に備えて教育に関する知識の定着を図るために、「学校インターンシップA・B・C」「中等教育実習(事前事後指導を含む)」等の授業を通して、実際の教育現場で経験を積むことに重点を置いた教育を行います。	学校インターンシップA 学校インターンシップB 学校インターンシップC	小中教育実習(事前事後指導を含む) 教職の設計Ⅰ 教職の設計Ⅱ 中等教育実習(事前事後指導を含む)	授業研究 教職の設計Ⅲ 地域学校協働実践演習 教職実践演習(幼小中高)			
	(8)卒業研究のうち、「ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、教育学の学びで身につけた資質・能力の有機的結合を深化させ、また「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」では、4年間の学びの集大成として、自分の専門領域に関する理解を深め、教育をめぐる現代的課題に対応する力を身につけるためにゼミナールに所属しゼミナール形式による教育を行います。		ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ	卒業論文Ⅰ 卒業論文Ⅱ			

学士の学位授与

常盤大学 人間科学部 学部共通科目 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	春	秋	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.人文科学、社会科学、自然科学の諸領域にわたる広く深い教養と基礎的な知識を身につけ、各学科の専門性および人間科学の枠組みで総合的に理解している。(知識・理解)	2.人間に関わる諸問題、とりわけ、心理や行動の発達、教育、社会や福祉、コミュニケーションに関わる諸問題を発見し、批判的に考え、多面的な思考と分析による確かな判断を下すことができる。(思考・判断)	3.人間科学に基づく高い倫理観をもち、自らの社会的責任を理解し、自らが率先して行動する態度を身につけている。(態度)	4.各学科の専門性に基づく高度な専門的知識と応用実践能力を修得し、課題解決のための具体的な方策を提示し、これを実行できる技能を身につけており、それによって社会に貢献することができる。(知識・理解、思考・判断、技能)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
	HMS-101	社会調査入門	講義	2	1	○	○		広い視野から人間や人間社会に関する理解の基礎を修得するためのひとつの科目として、社会調査入門が位置づけられている(カリキュラム・ポリシー①)。この授業では、人間社会を実証的に研究するための方法としての社会調査法の基礎を学ぶ。前半部分では、社会調査とは何か、その意義、問いをたて調査を実施するまでのプロセスについて学ぶ。後半部分では、社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を学ぶ。	(1)社会調査の基礎用語を理解し、調査の流れを説明できる(知識・理解)。 (2)調査倫理を遵守する態度を有している(態度)。 (3)調査を設計し、実施する際の留意点を説明できる(知識・理解)。	◎		○		
	HMS-201	人間科学概論	講義	2	3	○			広い視野から人間や人間社会に関する理解の基礎を修得するための科目である(カリキュラム・ポリシー①)。「人間」とは何か、という根本問題を探究している諸学問研究の成果を、学部3年次において再度とらえなおし、「人間科学」の形成過程とその学問的位置づけを考察する。また、履修学生相互の学びを通して、「人間観」「人間と科学技術」「人間集団」等をめぐる理解を深める。	(1)「人間性」を主題とする諸学問分野の理解に基づき、人間科学の学問的位置づけを説明できる(知識・理解)。 (2)異なる「人間像」を偏りなく理解し、説明できる(知識・理解)。 (3)人間や人間社会に関する課題について、多面的に考えようとする態度を有している(態度)。	●		◎		

常盤大学 人間科学部 教育学科 中等教育コース 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)	2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)	3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能)	4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の理解、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、技能)	5.学級経営を理解し、学年や学級を運営する力を身につけている。(思考・判断)	6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
学科基本科目	EDC-111	教育学概論	講義	2	1	○			(1)教育の基本的概念を身につけるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解することができる。 (2)教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解することができる。 (3)教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解することができる。	●						
	EDC-112	教職入門	講義	2	1	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について学び、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。	(1)教職の意義、我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解することができる。 (2)教員の役割、教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解することができる。 (3)教員の職務内容、教員の職務内容の全体像や教員に課せられる職務上・身分上の義務を理解することができる。 (4)チーム学校への対応、学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解することができる。		●					
	EDC-113	教育社会学	講義	2	1	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について、基礎的な知識を身につけるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身につける。	(1)社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれらに対応するための教育政策の動向を理解することができる。 (2)現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身につけるとともに、そこに内在する課題を理解することができる。 (3)学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解することができる。 (4)学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解することができる。		●					
	EDC-211	教育行政・制度・経営論	講義	2	2	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。現代の学校教育に関する制度的、経営的事項について、基礎的な知識を身につけるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身につける。	(1)現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身につけるとともに、そこに内在する課題を理解することができる。 (2)学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解することができる。 (3)学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解することができる。		●					
	EDC-114	教育心理学	講義	2	1	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。	(1)幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解することができる。 (2)幼児、児童及び生徒の学習の過程、幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解することができる。		●					
	EDC-212	特別支援教育の理論と実践	演習	2	2	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実態・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別的な教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得する。	(1)特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解することができる。 (2)特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解することができる。 (3)障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援・障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解することができる。			●				
	EDC-115	カリキュラム論	講義	2	1	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を学ぶとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。	(1)学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解することができる。 (2)教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解することができる。 (3)教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解することができる。		●					
	EDC-116	教育方法論	講義	2	1	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的知識・技能を身につける。	(1)これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解することができる。 (2)教育の目的に適した指導技術を理解し、身につけている。 (3)情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけている。		●					
	EDC-213	生徒指導・教育相談	講義	2	2	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を学ぶ。	生徒指導 (1)生徒指導の意義や原理を理解することができる。 (2)すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 (3)児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の機能と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 教育相談 (1)学校における教育相談の意義と理論を理解することができる。 (2)教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的知識を含む)を理解することができる。 (3)教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解することができる。			●	◎			
	EDC-214	進路指導論	講義	2	2	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活にりよく適応し、能力を伸長するよう、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それらに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身につける。	(1)進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 (2)全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解することができる。 (3)児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方や在り方を理解することができる。		●					
	EDC-215	AI・データサイエンスと教育	講義	2	2	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー2に基づく科目である。データサイエンス・AIの基本的な考え方や分析方法について理解し、現代の教育現象や教育データを分析することにより、教育データに基づいて説明し考察する力を身につけるとともに、データサイエンス・AIが教育の分野で活用されていることを理解する。	(1)データサイエンス・AIに関する基本的な考え方を理解し、基礎的な知識・技能を習得している。 (2)現代の教育現象や教育データに関心を持ち、教育データを分析して説明し考察することができる。 (3)データサイエンス・AIが教育の分野で活用されていることを理解することができる。	●						
	EDC-216	教育者への道 I	演習	2	2	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー2に基づく科目である。教育学科の専任教員がオムニバス形式で、教育思想、教育制度等の教育基礎分野について講義するとともに、茨城県教育研修センター・茨城県教育委員会など学外機関との連携による講義などを行い、理論と現実の教育課題を接続して考える力を身につける。	(1)教育基礎分野の様々な基礎知識を結び付けて系統的に理解することができる。 (2)教育理論と現実の教育課題を結び付けて説明することができる。 (3)教育活動に必要な社会人としての基礎的素養および教育者としての基礎的素養を身につけている。		●					
	EDC-217	教育者への道 II	演習	2	2	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー2に基づく科目である。教育学科の専任教員がオムニバス形式で、教育の最新動向について講義するとともに、茨城県教育研修センター・茨城県教育委員会など学外機関との連携による講義などを行い、一般の教育動向や教育課題を身近な教育の事象に結び付けて考える力を身につける。	(1)教育の最新動向をつかみ、様々な教育課題を相互に関連付けて理解することができる。 (2)一般的な教育動向や教育課題を分析し、身近な教育の事象に結び付けて考察することができる。 (3)教育活動に必要な社会人としての基礎的素養および教育者としての基礎的素養を身につけている。	●						
	EDC-321	学校と教育の歴史	講義	2	3	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。「教育」と「学校」が成立、展開していく過程を、その背景とともに的確に理解し、論理的に説明することができる。 (2)現代の「教育」や「学校」について、歴史的な省察を通じて多面的に思考し、自分の考えを他者に対して述べるることができる。	(1)「教育」と「学校」が成立、展開していく過程を、その背景とともに的確に理解し、論理的に説明することができる。 (2)現代の「教育」や「学校」について、歴史的な省察を通じて多面的に思考し、自分の考えを他者に対して述べるることができる。				◎			

常盤大学 人間科学部 教育学科 中等教育コース 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)	2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)	3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能)	4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の理解、主体的な知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を身につけている。(知識・理解、技能)	5.学級経営を理解し、学年や学級を運営する力を身につけている。(思考・判断)	6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
実践科目	EDC-232	学校インターンシップB	実習	1	2	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。学校インターンシップAにおける知見をもとに、採用希望校種の幼稚園・小学校・中学校・高等学校における教育活動や部活動、学校事務などの学校における活動全般の具体的な事項について、支援や補助業務を行うインターンシップおよびその事前事後指導を行う。インターンシップは1セメスター当たり計15時間以上実施する。	(1)採用希望校種の学校現場の実際について実践的に理解することができる。 (2)学校教員としての実践的指導力の基礎的内容を習得している。							●
	EDC-233	学校インターンシップC	実習	1	4	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。学校インターンシップA・Bにおける知見をもとに、採用希望校種とは異なる校種の幼稚園・小学校・中学校・高等学校における教育活動や部活動、学校事務などの学校における活動全般の基本的および具体的な事項について、支援や補助業務を行うインターンシップおよびその事前事後指導を行う。インターンシップは1セメスター当たり計15時間以上実施する。	(1)採用希望校種以外の学校現場の実際について実践的に理解することができる。 (2)学校教員としての実践的指導力の具体的な内容を習得している。							●
	EDC-331	小中教育実習(事前事後指導を含む)	実習	5	2	4	○	教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。小学校教諭一種免許状と中学校教諭一種免許状の両方の取得を希望する学生を対象とする。本科目は、実習校における教育実習と、その事前指導・事後指導から構成される。事前指導では教育実習生に求められる心得や態度について学ぶだけでなく、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開などを実践的に学ぶ。教育実習では3週間、実習校で観察実習・授業実習等を行う。事後指導では、各自の経験の報告・反省・討論を通して、その成果を検証・確認する。講義および模擬授業では、教科教育学の立場、現職経験の立場からそれぞれ指導・講評を行う。	(1)事前指導では教育実習生に求められる資質や態度を習得し、教育実習に対する自信を高めることができる。また、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開の技能を身につけている。 (2)事後指導では、各自の経験の報告・反省・討論により、教職に対する展望をもつことができる。 (3)授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能(ICTの活用を含む)をもつて指導することができる。 (4)教科等に関する専門的知識を有し、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。						●	◎
	EDC-332	地域学校協働実践演習	演習	2	3	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。地域全体で子どもたちの学びや成長を支えとともに「学校を核とした地域づくり」を目指して地域と学校が連携・協働する上で必要とされる具体的な知識やスキル・態度を身につけるための実践的な演習を行う。	(1)地域と学校が連携・協働する上での課題について、当該地域・学校の実情に即してその背景と要因を分析することができる。 (2)地域の教育人材や学校教職員と実際にかかわりあいが、地域と学校の連携・協働の具体的な取り組みの企画・運営に貢献することができる。						◎	⑩
歴史的分野	EDC-333	教職実践演習(幼小中高)	演習	2	4	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。教職実践演習は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかを確認する「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。 特に、 1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 2. 社会性や対人関係能力に関する事項 3. 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項 4. 教科・保育内容等の指導力に関する事項 の4つの事項を含む。 これらの事項について、役割演技(ロールプレイング)、事例研究、現地調査(フィールドワーク)、模擬保育・模擬授業等による学びを通して、教員に必要な能力を身につける。	(1)将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚でき、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートすることができる。 (2)学校での指導に必要な要件を理解し、基礎的な技能(ICTの活用を含む)をもつて指導することができる。 (3)学校組織の特徴や協働する意義を理解することができる。また、大学等におけるサークルや団体活動等の運営に主体的に関わることができる。 (4)安全管理に関する基礎的知識をもち、子供の安心・安全を常に意識し、対応することができる。						●	●
	EDS-111	日本史 I	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。「一般的包括的内容を含む科目」として、日本史の専門的知識、日本史教育の基礎的知識を身につけるために、主に、時代ごとの政治・経済的特質と展開に焦点を当て、原始・古代から近現代に至る日本の通史を講義する。関係史料の読解や最新の学説の紹介・批判も行い、日本の国家・社会の歴史を多面的に考察・理解する力を付ける。東アジアあるいは世界の中の日本という視点も重視し、国際関係の変化と日本史の展開を関連づけて考察していく。	(1)各時代の政治・経済・対外関係の特質と展開を相互関係・因果関係として説明できる。 (2)時代状況・背景を十分踏まえた上で、歴史的諸事象が生じた理由と今後の社会への影響を自身で考察できる。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に日本史に関する知識)を身につけている。						●	
	EDS-112	日本史 II	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。日本史 I の一般的包括的概観をふまえ、日本における歴史事象を、時代・地域・テーマなどで選択的に限定して、これを詳しく論じる。史料考察を積極的に用いて歴史事象の理解を深めると共に、東洋史・西洋史との世界的なつながりを視野に入れて、現代社会のグローバル化に対応した歴史観を育む。	(1)日本の歴史事象に関する専門的知識や史料考察の手法を身につけ、現代社会に対応した歴史観をもつことができる。 (2)社会科・地理歴史科の教科書・資料を使いこなして、日本の歴史事象を、世界的なつながりを視野に入れて生徒に適切に理解させるだけの、主体的学修力・言語表現力を身につける。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に日本史に関する知識)を身につけている。						●	
	EDS-211	東洋史 I	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。「一般的包括的内容を含む科目」として、中国を中心とした東洋史の専門的知識、世界史教育の基礎的知識を身につけるために、中国・日本における歴史に対する考え方やその歴史的展開を軸として、古代から現代に至る東洋の歴史について概説をする。学習指導要領に導入された「社会的事象の歴史的な見方・考え方を身につけるために、歴史に関する知識の他にも、歴史とは何なのか、なぜそのような出来事が起こったのか、などの歴史に対する問いの立て方や、資料の扱い方についても検討していく。	(1)古代から現代に至る東洋史における歴史についての考え方を説明することができる。 (2)歴史的な資料の取扱方を身につけている。 (3)社会科・地理歴史科に関する専門的知識(特に東洋史に関する知識)を身につけている。						●	
	EDS-212	東洋史 II	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。東洋史 I の一般的包括的概観をふまえ、東洋における歴史事象を、時代・地域・テーマなどで選択的に限定して、これを詳しく論じる。史料考察を積極的に用いて歴史事象の理解を深めると共に、日本史・西洋史との世界的なつながりを視野に入れて、現代社会のグローバル化に対応した歴史観を育む。	(1)東洋の歴史事象に関する専門的知識や史料考察の手法を身につけ、現代社会に対応した歴史観をもつことができる。 (2)社会科・地理歴史科の教科書・資料を使いこなして、東洋の歴史事象を、世界的なつながりを視野に入れて生徒に適切に理解させるだけの、主体的学修力・言語表現力を身につける。 (3)社会科・地理歴史科に関する専門的知識(特に東洋史に関する知識)を身につけている。						●	
	EDS-213	西洋史 I	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。「一般的包括的内容を含む科目」として、西洋の歴史を概観する。オリエント・古典古代の伝統を継承し、中世ヨーロッパで成立したその歴史は、近代以降のグローバル化を通じて新大陸世界を取りこんだ大きな流れとなる。政治・経済・産業・学芸などでの発展に基づく、西洋世界の繁栄は、その後世界規模の歴史事象や価値観を生み出した。こうした西洋の歴史の特徴と特質を論じる。	(1)西洋の歴史事象に関する知識を身につけ、その特徴や特質を基に、古代から現代までの西洋史を概観できる。 (2)社会科・地理歴史科の教科書・資料を使いこなして、西洋の歴史事象を生徒に適切に理解させるだけの、主体的学修力・言語表現力を身につけている。						●	
EDS-214	西洋史 II	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。西洋史 I の一般的包括的概観をふまえ、西洋における歴史事象を、時代・地域・テーマなどで選択的に限定して、これを詳しく論じる。史料考察を積極的に用いて歴史事象の理解を深めると共に、日本史・東洋史との世界的なつながりを視野に入れて、現代社会のグローバル化に対応した歴史観を育む。	(1)西洋の歴史事象に関する専門的知識や史料考察の手法を身につけ、現代社会に対応した歴史観をもつことができる。 (2)社会科・地理歴史科の教科書・資料を使いこなして、西洋の歴史事象を、世界的なつながりを視野に入れて生徒に適切に理解させるだけの、主体的学修力・言語表現力を身につける。 (3)社会科・地理歴史科に関する専門的知識(特に西洋史に関する知識)を身につけている。						●		
EDS-221	地域研究入門	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。インターネットを用いることで世界の国々について理解しやすくなったようにも見える。しかし、日本にいて海外において急速に進む実情を知ることは簡単ではない。本授業では、グローバル化する世界の中で個々の地域がおかれている「位置」を的確に捉えるとともに、その地域に生きる住民の現実世界とその日常的な実践という「主体」を含めた「地域」概念の再構築を考察する機会を設けたい。	(1)地域を複眼的に把握する視点、学際的な思考を身につけることができる。 (2)地域研究の方法の理解を深め、その基礎を理解できる。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に地域研究に関する知識)を身につけている。						●		

常盤大学 人間科学部 教育学科 中等教育コース 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)					
										1.教育活動に必要とする人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)	2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)	3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能)	4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の学習指導要領に共通する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を身につけている。(知識・理解、技能)	5.学級経営を理解し、学年や学級を統括する力を身につけている。(思考・判断)	6.学校等の組織で協働的に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)
地理的分野	EDS-121	人文地理学 I	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく、「一般的包括的な内容を含む科目」である。人文地理学は、人間と地域との繋がりを明らかにする学問である。大学レベルの人文地理学初学者的ための入門として、基礎的な概念を教授するとともに、学生にとって身近な地域である大学周辺をフィールドとし、地理学特有の概念や、分析・判断・洞察の技能、即ち「地理的な見方や考え方を」習得していく。また、大学周辺のフィールドワークを通じ、実際の地域を観察することの重要性も学ぶ。	(1)地理学の基礎となる知識・技能、及び、地理的な見方や考え方の前提としての、読図・作図の能力、統計資料の収集・表現の能力、文献の収集の能力、聞き取り調査の能力を身につけている。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に人文地理学に関する知識)を身につけている。	●					⑩
	EDS-122	人文地理学 II	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。世界で繰り返られる様々な人間活動の中でも、人文地理学の一分野である。歴史地理学に関する諸事象を取り扱う。特に明治期以降の地域構造の変化のメカニズムを、日本の近代化の諸事象との関わりを視野に入れながら検討し、地理学の専門的な内容の理解と教科の実践的指導力を身につける。	(1)地理学に関する専門的知識・視点の修得の重要な要素である地域を時間軸のなかでとらえ、地域変容の因果関係・メカニズムについて説明することができる。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に人文地理学・歴史地理学に関する知識)を身につけている。		●				⑩
	EDS-123	自然地理学 I	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく、「一般的包括的な内容を含む科目」である。自然環境と人間活動との相互関係を明らかにする地理学の成果を踏まえて、今日の環境問題を理解するために必要な自然地理学の基礎的知識を学ぶ。また、自然地理学的な観点からさまざまな地域の自然環境、地球環境問題を理解していくことによって、その対応策を考える。	(1)地理学の基礎的知識の習得とともに地理学的なモノの見方・考え方を理解でき、地域に対する理解を深めることができる。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に自然地理学に関する知識)を身につけている。		●				⑬
	EDS-124	自然地理学 II	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。自然環境と人間活動との相互関係を明らかにする地理学の成果を踏まえて、今日の環境問題を理解するために必要な自然地理学の基礎的知識を学ぶ。また、自然地理学的な観点からさまざまな地域の自然環境、地球環境問題を理解していくことによって、その対応策を考える。	(1)地理学の基礎的知識の習得とともに地理学的なモノの見方・考え方を理解でき、地域に対する理解を深めることができる。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に自然地理学に関する知識)を身につけている。		●				⑬
	EDS-222	地誌	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目、「一般的包括的な内容を含む科目」である。世界、アジア、日本、茨城県といったいくつかのスケールで地域の見方を学び、地誌的な見方・考え方を修得する。グローバル化が進む現代社会を理解するためには、世界の事情に通じていくことはますます重要になってきている。しかし、世界の諸地域を理解するためには、私たちの住む地域社会にどのような特徴があるのか、他の地域とどのような差異があるのかといった身近な地域の理解も不可欠であり、それは地域をリアルに理解する有効な手法でもある。そうした地域の捉え方を学んでいく。	(1)地理的事象を地誌的に考察し、様々なスケールにおける地域の見方・考え方を修得している。とくに身近な地域を再認識することによって、現代社会で自立的に生きるための地誌観を身につけている。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に地誌に関する知識)を身につけている。		●				
	EDS-321	地域研究(アジア) I	講義	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。中国の国家体制について理解するため、まず中国共産党と中華人民共和国の歴史に関する講義を行う。現在の中国共産党が指導する国家と政治体制のあり方について論じた上で、中国の抱えるさまざまな問題とその対処方法について説明する。最後に、中国の「核心的問題」である領土問題に関連して少数民族問題と台湾との関係について説明し、日中関係についても理解を深める。	(1)異なる国家体制について理解を深めるとともに、異なる価値観やイデオロギーについて知ることにより、自らの生き社会のあり方について思索を深めることができる。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にアジア地域に関する知識)を身につけている。		●				
	EDS-322	地域研究(アジア) II	講義	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。古くから日本と多様・多元的な交流を持ち続けてきた朝鮮半島の歴史と地域特性を講義する。韓国・朝鮮の歴史と社会について重要な基礎的事項への理解を深め、現在の研究動向を紹介するとともに探求すべきポイントを検討していく。論点となっているさまざまな事情について、それがなぜ議論になっているのかを明らかにする。それを理解することが、日本を含めた東アジア近隣諸地域との共通点および相違点についての探求にもつながる。	(1)朝鮮半島と東アジア地域に関する客観的知識を得ると同時に、それに支えられた合理的・多角的な考察力、問題の解決に役立つ幅広い思考力を身につけることができる。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にアジア地域に関する知識)を身につけている。		●				
	EDS-323	地域研究(アメリカ) I	講義	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。アメリカ合衆国の未完の理想・理念である多様性のなかの「統一」というテーマに焦点を当て、同国の多様性を支えてきたマイノリティの人々と文化・政治の関係を概観する。具体的には、「アフリカ系アメリカ人」、「ネイティブ・アメリカン」が置かれてきた政治・社会状況を検討していく。	(1)地域研究の手法として「社会史」の方法論について基本的な内容を理解し、アメリカのマイノリティについて歴史的に理解することができる。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にアメリカ地域に関する知識)を身につけている。		●				
	EDS-324	地域研究(アメリカ) II	講義	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。「地域研究(アメリカ) I」で学習した地域研究の手法としての「社会史」に再び焦点を当て、社会的弱者としてのマイノリティ(移民とジェンダー)の問題を中心として概観する。また、「人種」という概念を相対化し、社会的構築主義の立場から集団を一括りにすることが如何に可能(不可能)かを検討する。	(1)移民や性的弱者が置かれてきた状況について理解し、「人種」の概念の歴史的変遷について理解できるようになる。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にアメリカ地域に関する知識)を身につけている。		●				
	中等教育コース科目	EDS-325 I	地域研究(ヨーロッパ) I	講義	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。ヨーロッパ地域の文化・社会に関連して、教育活動を担うにあたり必要な基本的資質・素養ならびに専門的知識を身につけ、ヨーロッパ世界の特質を理解することができる。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にヨーロッパ地域に関する知識)を身につけている。	(1)ヨーロッパ地域の文化・社会に関連して、教育活動を担うにあたり必要な基本的資質・素養ならびに専門的知識を身につけ、ヨーロッパ世界の特質を理解することができる。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にヨーロッパ地域に関する知識)を身につけている。		●			
EDS-326 II		地域研究(ヨーロッパ) II	講義	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。ヨーロッパ地域を対象として、第1に、「地域研究」という学問分野とは何か、どのようにして生まれ発展したかを、とくに植民地支配や戦争の道具であったという視点から講義する。第2に、「ヨーロッパ」と自称する地域の大體(おおまか)のみならず、東欧、東欧、中東欧を含めた歴史的特徴、今日に至る問題点を概観する。第4に、一つの国や地域に関心を持つとはどのようなことかを、授業を担当する教員自身を事例研究の対象として学ぶ。	(1)領域横断的な教養として、異国の事柄について学び、また継続的に関心を持ち続け、地理と歴史を縦横にからめて国際的な観点から把握する習慣を身につけている。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にヨーロッパ地域に関する知識)を身につけている。		●				
EDS-231		法律学(国際法を含む)	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく、「一般的包括的な内容を含む科目」である。法の定義、歴史、機能を学ぶ他、法の各分野(公法と私法、実体法と手続法、国内法と国際法)を講義する。法は現代社会が円滑に機能するために不可欠な装置である。社会のすべての成員は日常生活において様々なルールに従い、あるいはこれを用いているが、これらのルールの中で、法は最も重要なものである。法の基礎と体系を学ぶことは現代社会を理解するための大切な手掛かりとなる。このような観点から、具体的な事象への法適用を踏まえて講義する。	(1)法の概要を理解し、法とは何かについて、また、日本の法体系と法の適用の仕組みについて説明することができる。 (2)社会の様々な事象について法的観点から分析することができる。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に法律学に関する知識)を身につけている。		●				⑯
EDS-232	政治学(国際政治を含む)	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく、「一般的包括的な内容を含む科目」である。人間や人間社会の諸問題を解決する力を身につけるために、政治学を国際関係における政治学と捉え、国際情勢を正確に読み解き、国際理解を深める講義を行う。具体的には、言語・宗教・民族を注視し、主権国家、国際法、近世・近代・現代における戦争と戦争観、地政学、国家指導者の役割などについて、論理的な枠組みを踏まえつつ、随時実例を交えて解説する。これらを通じて、教養、自己教育力、思考力、判断力を養う。これは、洋の古今東西を問わず普遍的な「人間とは何か」という根本的な問題にアプローチする方策の一つでもある。	(1)新聞やテレビ等のニュースを見て、「5W1H」を読み取り、その内容を他人に語るることができる。 (2)国際情勢を捉えるための基礎的な視座・分析枠組みと専門知識を身につけている。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に政治学に関する知識)を身につけている。		●				⑯	

常盤大学 人間科学部 教育学科 中等教育コース 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)	2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)	3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能)	4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の理解、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本的な実践的指導力を身につけている。(知識・理解、技能)	5.学級経営を理解し、学年や学級を運営する力を身につけている。(思考・判断)	6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
公民的分野	EDS-233	経済学(国際経済を含む)	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく、「一般的包括的な内容を含む科目」である。実社会を見る視点・知識を養うために知っておくべき、経済学の基礎的な知識と手法(ミクロ経済学とマクロ経済学)を学ぶ。経済学は、私たちが暮らす社会の動きや仕組みを明らかにしようとする学問である。例えば、消費者物価とは何か、消費者物価が上がると私たちの生活にどのような影響が及ぶか、私たちはどのような行動をとるかなど、社会の動きや仕組みを、経済学というツールを利用してより深く考察していく。	(1)最新の政府統計等のデータを見て、現在の社会情勢や変化について捉え、経済学の観点から現実の社会的現象を論じることができる。 (2)経済理論と政府統計等のデータを応用し、政策を立案・提言することができる。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に経済学に関する知識)を身につけている。							
	EDS-234	哲学概論	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく、「一般的包括的な内容を含む科目」である。広く深い教養と知識を身につけるために、ヨーロッパと東洋(中国)の古今の哲学・思想について概観する。まず、自分たちが常識だと思っていることを疑ってみることによって、現在の我々のものの見方、考え方の根底に哲学があることに気づいてもらう。さらに、現代の考え方が、どのように発展・展開してきたのか、ヨーロッパの哲学と中国を中心とした東洋思想を軸とする講義を行い、哲学についての知識を深め、現代の哲学について考察していく。	(1)東洋と西洋の哲学・思想の概要を説明することができる。 (2)学問および社会の根底には哲学があることを認識することができる。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に哲学に関する知識)を身につけている。							
	EDS-235	倫理学概論	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく、「一般的包括的な内容を含む科目」である。日本人の倫理思想について講義する。現在、国際化が進んでいるが、自分や自分をとりまく日本人の行動様式や倫理観を知ることだけでは不十分。それは、日本の歴史の中で、日本古来の思想、仏教思想、儒教思想、アフリカの民主主義など、多くの思想の影響を受けて形成されてきたと考えられる。本科目ではまず、日本人の倫理思想を形成してきた儒教思想および仏教思想を検討する。さらにキリスト教を基本とする西洋の倫理思想を考察することによって、現代日本の倫理思想についての考えを深め、現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身につける。	(1)現代日本人の倫理観を形成している様々な倫理思想を理解することができる。 (2)自分や他人の行動を客観的に考えることができる。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に倫理学に関する知識)を身につけている。							
中等教育分野	EDS-241	中等社会科・地理歴史教育法 I	演習	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー6に基づく科目である。社会科教員に必要な能力を身につけるべく、社会科・地理歴史科における教材研究の方法、学習指導要領、社会科カリキュラム構成原理等を検討し、社会科の目的、意義、課題を学ぶ。また、社会科・地理歴史科における教材研究の方法、学習指導要領の工夫について理解した上で、学習指導案の作成や、授業実践の分析を行うことで、社会科の授業づくりのための基礎的な知識・技能を習得する。	(1)学習指導要領の主な目標、授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (2)社会科・地理歴史科に関する専門的知識に基づき、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。 (3)学習課題の設定や探究的なプロセス、主体的・対話的で深い学びの重要性を理解して指導に生かし、授業を実践することができる。 (4)ICTの活用方法を理解し、教育活動に生かすことができる。			●	◎			
	EDS-242	中等社会科・地理歴史教育法 II	演習	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー6に基づく科目である。社会科教員に必要な能力を身につけるべく、「社会科・地理歴史教育法 I」で学んだ社会科教育の理論的・実践的基礎の上にたち、社会科・地理歴史科における教材研究の方法、学習指導要領、社会科カリキュラム構成原理等を検討し、社会科の目的、意義、課題を授業実践に反映する。また、社会科・地理歴史科における教材研究の方法、学習指導要領の工夫について理解した上で、学習指導案の作成や、授業実践の分析を行うことで、社会科の授業づくりのための知識・技能を習得し実践的授業力を身につける。	(1)学習指導要領の主な目標、授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (2)社会科・地理歴史科に関する専門的知識に基づき、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。 (3)学習課題の設定や探究的なプロセス、主体的・対話的で深い学びの重要性を理解して指導に生かし、授業を実践することができる。 (4)ICTの活用方法を理解し、教育活動に生かすことができる。			●	◎			
	EDS-243	中等社会科・公民科教育法 I	演習	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー6に基づく科目である。社会科及び高等学校公民科の目標・内容・方法について学習する。社会科・公民科の歴史の変遷をたどることで、その基本的性格を理解する。また、グループで協力しながら社会科・公民科の授業づくりに取り組み、実践する。	(1)学習指導要領の主な目標、授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (2)社会科・公民科に関する専門的知識に基づき、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。 (3)学習課題の設定や探究的なプロセス、主体的・対話的で深い学びの重要性を理解して指導に生かし、授業を実践することができる。 (4)ICTの活用方法を理解し、教育活動に生かすことができる。			●	◎			
	EDS-244	中等社会科・公民科教育法 II	演習	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー6に基づく科目である。中学校社会科及び高等学校公民科の目標・内容・方法について学習する。近年の学習指導要領改訂の動向や、私たちが生きる現代社会への理解を深めながら、社会科・公民科の授業を作る上で重要な点について考察する。さらに、グループで協力しながら授業づくりに取り組む。	(1)学習指導要領の主な目標、授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (2)社会科・公民科に関する専門的知識に基づき、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。 (3)学習課題の設定や探究的なプロセス、主体的・対話的で深い学びの重要性を理解して指導に生かし、授業を実践することができる。 (4)ICTの活用方法を理解し、教育活動に生かすことができる。			●	◎			
中等教育実践科目	EDS-351	中等教育実習(事前事後指導を含む)	実習	5	2	4	○	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。中学校教諭一種免許状の取得を希望する者、高等学校教諭一種免許状の取得を希望する者、または、中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状の両方の取得を希望する者を対象とする。本科目は実習校における教育実習と、その事前指導・事後指導から構成される。中学校教員・高等学校教員に必要な能力を身につけるべく、事前指導では教育実習生に求められる心得や態度について学ぶだけでなく、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開などを実践的に学ぶ。教育実習では3週間に渡り、実習校で観察実習・授業実習等を行う。事後指導では、各自の経験の報告・反省・討論を通して、その成果を検証・確認する。講義および模擬授業では、教科教育の立場、現職経験者の立場からそれぞれ指導・講義を行う。	(1)事前指導では教育実習生に求められる資質や態度を習得し、教育実習に対する自信を高めることができる。また、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開の技能を身につけている。 (2)事後指導では、各自の経験の報告・反省・討論により、教職に対する展望をもつことができる。 (3)授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能(ICTの活用を含む)をもって指導することができる。 (4)教科等に関する専門的知識を有し、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。			●	◎			
	EDS-352	中等教育実習(事前事後指導を含む)	実習	5	2	4	○	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。中学校教諭一種免許状の取得を希望する者、高等学校教諭一種免許状の取得を希望する者、または、中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状の両方の取得を希望する者を対象とする。本科目は実習校における教育実習と、その事前指導・事後指導から構成される。中学校教員・高等学校教員に必要な能力を身につけるべく、事前指導では教育実習生に求められる心得や態度について学ぶだけでなく、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開などを実践的に学ぶ。教育実習では3週間に渡り、実習校で観察実習・授業実習等を行う。事後指導では、各自の経験の報告・反省・討論を通して、その成果を検証・確認する。講義および模擬授業では、教科教育の立場、現職経験者の立場からそれぞれ指導・講義を行う。	(1)事前指導では教育実習生に求められる資質や態度を習得し、教育実習に対する自信を高めることができる。また、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開の技能を身につけている。 (2)事後指導では、各自の経験の報告・反省・討論により、教職に対する展望をもつことができる。 (3)授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能(ICTの活用を含む)をもって指導することができる。 (4)教科等に関する専門的知識を有し、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。			●	◎			
卒業研究	THS-201	ゼミナール I	演習	2	3	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー8に基づく科目である。卒業研究に求められる基礎的な研究作法の習得を図るとともに、専門書や研究論文の基本的な読み方の習得を図る。	(1)学術的研究における新規性・独自性および客観性・正確性の意味を説明することができる。 (2)専門書や研究論文を論理的かつ批判的に読み解くことができる。 (3)授業運営へ主体的に関与し、学生同士が学び合い支え合う環境づくりに携わることができる。						●	
	THS-202	ゼミナール II	演習	2	3	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー8に基づく科目である。卒業論文において取り組む研究課題の明確化・具体化を進めるとともに、研究課題への取り組みに必要な先行研究の収集および整理を行う。	(1)卒業論文の研究課題を設定し、その社会的意義および新規性・独自性を説明することができる。 (2)研究課題に取り組むための先行研究を収集・整理し、主要な先行研究を特定してその成果と課題を説明することができる。 (3)授業運営へ主体的に関与し、学生同士が学び合い支え合う環境づくりに携わることができる。						●	
	THS-301	卒業論文 I	演習	2	4	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー8に基づく科目である。卒業論文の執筆のための構想および計画を作成するとともに、研究課題への取り組みに必要な先行研究の分析および各種調査を行う。	(1)卒業論文の執筆のための構想および計画を立案し、継続的に改善を進めて完成させることができる。 (2)研究課題に取り組むための様々な先行研究を分析するとともに、必要に応じて適切な調査を企画・実施することができる。 (3)授業運営へ主体的に関与し、学生同士が学び合い支え合う環境づくりに携わることができる。						●	

常盤大学 人間科学部 教育学科 中等教育コース 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)	2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)	3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能)	4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を身につけている。(知識・理解、技能)	5.学級経営を理解し、学年や学級を運営する力を身につけている。(思考・判断)	6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応している。(思考・判断)	＜SDGsの17のゴールとの関連＞ 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう
										THS-302	卒業論文Ⅱ	演習	4	4	○	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー8に基づき科目である。卒業論文の執筆を進めるとともに、卒業論文をもとにしながら卒業研究の成果を平易な方法で表現する。

常盤大学 人間科学部 教育学科 中等教育コース 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)	2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)	3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能)	4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の理解等に関する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を身につけている。(知識・理解、技能)	5.学級経営を理解し、学年や学級を運営する力を身につけている。(思考・判断)	6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう

【2022年度以前適用カリキュラム】常盤大学 人間科学部 教育学科 中等教育コース 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

EDS-111	教育学概論(中等)	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。 教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みやがどのように捉えられ、変遷してきたかを理解する。	(1)教育の基本的概念を身につけるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解することができる。 (2)教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解することができる。 (3)教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解することができる。	●						
EDS-112	教職入門(中等)	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。 現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について学び、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。	(1)教職の意義:我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解することができる。 (2)教員の役割:教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解することができる。 (3)教員の職務内容:教員の職務内容の全体像や教員に課せられる職務上・身分上の義務を理解することができる。 (4)チーム学校への対応:学校の担い手が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解することができる。	●						
EDS-113	教育社会学(中等)	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。 現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について、基礎的な知識を身につけるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身につける。	(1)社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれらに対応するための教育政策の動向を理解することができる。 (2)現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身につけるとともに、そこに内在する課題を理解することができる。 (3)学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解することができる。 (4)学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づき、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解することができる。	●						
EDS-312	教育経営論(中等)	講義	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。 現代の学校教育に関する制度的、経営的事項について、基礎的な知識を身につけるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身につける。	(1)現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身につけるとともに、そこに内在する課題を理解することができる。 (2)学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解することができる。 (3)学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解することができる。	●						
EDS-114	教育心理学(中等)	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。	(1)幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程:幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解することができる。 (2)幼児、児童及び生徒の学習の過程:幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身につけ、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解することができる。	●						
EDS-211	特別支援教育の理論と実践(中等)	演習	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。 通常の学級にも在籍している発達障害や軽度の障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実態・達成感をもたながら学び、生きる力を身につけていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別的教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得する。	(1)特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解することができる。 (2)特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解することができる。 (3)障害はないが特別的教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援:障害はないが特別的教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解することができる。	●						
EDS-115	カリキュラム論(中等)	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。 学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を学ぶとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。	(1)学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解することができる。 (2)教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解することができる。 (3)教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解することができる。	●						
EDS-121	教育方法学(中等)	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。	(1)これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解することができる。 (2)教育の目的に適した指導技術を理解し、身につけている。 (3)情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけている。	●						
EDS-322	生徒指導・教育相談(中等)	講義	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。 生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身につける。 教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支える教育活動である。 幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を学ぶ。	生徒指導 (1)生徒指導の意義や原理を理解することができる。 (2)すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 (3)児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の種別と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 教育相談 (1)学校における教育相談の意義と理論を理解することができる。 (2)教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事柄を含む)を理解することができる。 (3)教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解することができる。	●	◎					
EDS-323	進路指導論(中等)	講義	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。 進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。 進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身につける。	(1)進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 (2)全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方や指導の在り方を理解することができる。 (3)児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方や在り方を理解することができる。	●						
EDS-311	学校と教育の歴史(中等)	講義	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー3に基づく科目である。 「教育」と「学校」が成立、展開していく過程を、その背景とともに的確に理解し、論理的に説明することができる。 (2)現代の「教育」や「学校」について、歴史的な省察を通じて多面的に思考し、自分の考えを他者に対して述べるることができる。	(1)「教育」と「学校」が成立、展開していく過程を、その背景とともに的確に理解し、論理的に説明することができる。 (2)現代の「教育」や「学校」について、歴史的な省察を通じて多面的に思考し、自分の考えを他者に対して述べるることができる。	●						
EDS-221	道徳教育の理論と実践(中等)	講義	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。 道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的指導力を身につける。	(1)道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解することができる。 (2)学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解することができる。	●						

常盤大学 人間科学部 教育学科 中等教育コース 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)	2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)	3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能)	4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を身につけている。(知識・理解、技能)	5.学級経営を理解し、学年や学級を運営する力を身につけている。(思考・判断)	6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応している。(思考・判断)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう	
																	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)
	EDS-222	総合的な学習の時間の指導法(中等)	講義	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。 総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。 各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身につける。	(1)総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解することができる。 (2)総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身につけている。 (3)総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解することができる。								
	EDS-321	特別活動論(中等)	講義	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。 特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を営むことを行う活動の総称である。 学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己表現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身につける。	(1)特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。 (2)教育課程全体で取り組む特別活動の指導のあり方を理解し、合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導のあり方を例示することができる。								
	EDS-223	ICT教育の理論と方法(中等)	演習	2	1			教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー6に基づく科目である。 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身につける。	(1)情報通信技術の活用の意義と理論を理解することができる。 (2)情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解することができる。 (3)児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む。)を育成するための基礎的な指導法を身につけている。								
	EDC-361	教職設計演習Ⅰ	演習	2	3	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 学校教育に関する法令、学校における教育活動の実践、児童生徒理解の方法等の基礎的理解をもとに、課題に対するグループ討議やワークショップ等を行う。	(1)学校教育課題の現状と課題解決の方法、教員の身分的根拠等を理解することができる。 (2)教師の仕事について理解し、教師になるための心構えや意識の向上させることができる。								
	EDC-362	教職設計演習Ⅱ	演習	2	3	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 教職に向けた実践的な個人面接や集団討議の方法、小論文の書き方のポイント等を習得するために、模擬面接、模擬集団討議、小論文の演習を行う。	(1)個人面接や集団討議の方法、小論文の書き方のポイント等を習得している。 (2)自身がこれから教師になるための課題を適切に理解することができる。								
	EDC-363	教職設計演習Ⅲ	演習	2	4	○		教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 一般教養や教職教育および今日的な教育課題の解決に関する知識・理解の定着を図るために、演習問題を中心としたより実践的な教員採用試験対策を行う。	(1)教員採用試験に向けて一般教養や教職教育に関する知識・理解を定着させることができる。 (2)教員採用試験に向けて今日的な教育課題を解決するための考え方や取り組みを表現することができる。								
	EDS-333	教職実践演習(中高)	演習	2	4	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。 教職実践演習は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身につけた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかを認認する「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。 特に、 1.使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 2.社会性や対人関係能力に関する事項 3.生徒理解や学級経営等に関する事項 4.教科内容等の指導力に関する事項 の4つの事項を含む。 これらの事項について、役割演技(ロールプレイング)、事例研究、現地調査(フィールドワーク)、模擬授業等による学びを通して、中学校教員・高等学校教員に必要な能力を身につける。	(1)将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚でき、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートすることができる。 (2)授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能(ICTの活用を含む)をもって指導することができる。 (3)学校組織の特質や協働の意義を理解するとともに、大学等におけるサークルや団体活動等の運営に主体的に関わることができる。 (4)安全管理に関する基礎的な知識をもち、子供の安心・安全を常に意識し、対応することができる。								
	EDS-241	アジア史Ⅰ	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。 「一般的包括的内容を含む科目」として、アジアの歴史について古代から現代までを通して概観する。対象地域としては、アジアの東部(東・東南アジア)と西部(西・南アジア)を取り上げる。近年の地域事情や研究動向にも触れ、現代との繋がりを新たな情報も考慮しながら、多角的な考察と理解を目指す。	(1)アジアの歴史について、基本となる情報を把握し、基礎知識を十分修得した上で、自ら説明することができる。 (2)各時代と現代とのつながり、これまでの各地域と日本との結びつきを意識し、国際関係についてより深い洞察を持つことができる。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にアジア史に関する知識)を身につけている。								
	EDS-242	アジア史Ⅱ	講義	2	1	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。 アジアの歴史思想の基礎にある『春秋』の思想について、その動機から、変遷、『神皇正統記』や『大日本史』など日本の歴史書への影響に至るまでを講義する。それにより、現代の中国、日本の歴史に対する考え方がどのように形成されてきたのかを考え、社会的現象の歴史な見方・考え方を養う。我々はなぜ歴史を学ばなければならないのか、誰も一度は疑問に思ったことがあるだろう。しかし、我々は歴史の恩恵を様々な方面で受けており、歴史無くして今の生活を語ることができない。人類は、まさに有史以来、歴史を書き続け、今に至っているが、何を何のためにどのように記述するのか、歴史に対する考え方は古今東西様々である。本科目は、そうした歴史観についても考えていく。	(1)東アジアの歴史思想を踏まえて、歴史の中にはそれを支える様々な思想があることを理解することができる。 (2)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にアジア史・中国史に関する知識)を身につけている。								
	EDS-271	社会科・地理歴史教育Ⅰ	演習	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー6に基づく科目である。 社会科教員に必要な能力を身につけるべく、社会科・地理歴史科における教材研究の方法、学習指導要領、社会科カリキュラム構成原理等を検討し、社会科の目的、意義、課題を学ぶ。また、社会科・地理歴史科における教材研究の方法、学習指導要領の工夫について理解した上で、学習指導案の作成や、授業実践の分析を行うことで、社会科の授業づくりのための知識・技能を習得し実践的授業力を身につける。	(1)学習指導要領の主な目標、授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (2)社会科・地理歴史科に関する専門的知識に基づき、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。 (3)学習課題の設定や探究的なプロセス、主体的・対話的で深い学びの重要性を理解して指導に生かすことができる。 (4)ICTの活用方法を理解し、教育活動に生かすことができる。								
	EDS-272	社会科・地理歴史教育Ⅱ	演習	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー6に基づく科目である。 社会科教員に必要な能力を身につけるべく、「社会科・地理歴史教育Ⅰ」で学んだ社会科教育の理論的・実践的基礎の上にたち、社会科・地理歴史科における教材研究の方法、学習指導要領、社会科カリキュラム構成原理等を検討し、社会科の目的、意義、課題を授業実践に反映する。また、社会科・地理歴史科における教材研究の方法、学習指導要領の工夫について理解した上で、学習指導案の作成や、授業実践の分析を行うことで、社会科の授業づくりのための知識・技能を習得し実践的授業力を身につける。	(1)学習指導要領の主な目標、授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (2)社会科・地理歴史科に関する専門的知識に基づき、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。 (3)学習課題の設定や探究的なプロセス、主体的・対話的で深い学びの重要性を理解して指導に生かすことができる。 (4)ICTの活用方法を理解し、教育活動に生かすことができる。								
	EDS-273	社会科・公民科教育Ⅰ	演習	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー6に基づく科目である。 社会科及び高等学校公民科の目標・内容・方法について学習する。近年の学習指導要領改訂の動向や、私たちが生きる現代社会への理解を深めながら、社会科・公民科の授業を向上させる重要な点について考察する。さらに、グループで協力しながら授業づくりに取り組む。	(1)学習指導要領の主な目標、授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (2)社会科・公民科に関する専門的知識に基づき、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。 (3)学習課題の設定や探究的なプロセス、主体的・対話的で深い学びの重要性を理解して指導に生かすことができる。 (4)ICTの活用方法を理解し、教育活動に生かすことができる。								
	EDS-274	社会科・公民科教育Ⅱ	演習	2	2	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー6に基づく科目である。 中学校社会科及び高等学校公民科の目標・内容・方法について学習する。近年の学習指導要領改訂の動向や、私たちが生きる現代社会への理解を深めながら、社会科・公民科の授業を向上させる重要な点について考察する。さらに、グループで協力しながら授業づくりに取り組む。	(1)学習指導要領の主な目標、授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (2)社会科・公民科に関する専門的知識に基づき、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。 (3)学習課題の設定や探究的なプロセス、主体的・対話的で深い学びの重要性を理解して指導に生かすことができる。 (4)ICTの活用方法を理解し、教育活動に生かすことができる。								

常盤大学 人間科学部 教育学科 中等教育コース 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	カリキュラム分類コード	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	1.教育活動に必要な社会人としての素養、および教育者としての素養を併せて習得している。(知識・理解、態度)	2.生徒の心身の発達、いじめの実態、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)	3.特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(技能)	4.学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の理解、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を身につけている。(知識・理解、技能)	5.学級経営を理解し、学年や学級を運営する力を身につけている。(思考・判断)	6.学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(思考・判断)	<SDGsの17のゴールとの関連> 概論:SDGsの概念や考え方を学ぶ ①:貧困をなくそう ②:飢餓をゼロに ③:すべての人に健康と福祉を ④:質の高い教育をみんなに ⑤:ジェンダー平等を実現しよう ⑥:安全な水とトイレを世界中に ⑦:エネルギーをみんなにそしてクリーンに ⑧:働きがいも経済成長も ⑨:産業と技術革新の基盤をつくろう ⑩:人や国の不平等をなくそう ⑪:住み続けられるまちづくりを ⑫:つくる責任つかう責任 ⑬:気候変動に具体的な対策を ⑭:海の豊かさを守ろう ⑮:陸の豊かさを守ろう ⑯:平和と公正をすべての人に ⑰:パートナーシップで目標を達成しよう					
																	EDC-331	学級経営論	講義	2	2
EDC-332	教育方法学演習	演習	2	2	○	教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。現代の教育方法学の基礎にある「学習科学」の多様な知見および授業づくりへの実践的活用方法について講義するとともに、各自が関心のある「学習科学」の理論を取り上げた討論、授業づくり・教育方法に関する小論文作成の演習を行う。	(1)「学習科学」の諸理論を理解することができる。 (2)「学習科学」を踏まえた授業づくりの視点を理解することができる。 (3)授業づくり・教育方法について小論文を作成することができる。														
EDC-333	教育実践研究	実習	2	3	○	教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。予測不可能なこれからの社会における課題の発見とそれを解決するための基盤となる知識、スキル、能力を身につける上で、学校で行われる人材育成はどのように変化していくのかを検討する。	(1)学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、実践的指導力を習得している。 (2)これからの学校のあり方について自分の考えを構築することができる。 (3)これからの学校のあり方についての自分の考えをプレゼンテーション等で適切に発表することができる。														
EDC-371	教育調査法実習	実習	2	3	○	教育学科初等教育コースおよび中等教育コースのカリキュラム・ポリシー2に基づく科目である。教育調査に関する基礎的知識を理解し技能を習得するために、前半は質問紙調査法、後半は面接法を中心とするフィールドワークを行う。履修者自身が問題を設定し、調査を計画し、データを集集・分析し、報告する過程に実習形式で取り組む。	(1)教育に関する問題を認識し、問いの設定、調査の立案、実施、結果の分析、報告という一連の教育調査の過程を理解し、実践することができる。 (2)SPSSの基本的な操作方法を理解し、結果を出力することができる。 (3)地域や学校現場における教育課題を発見することができる。														
EDS-324	授業論(中等)	演習	2	2	○	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー4に基づく科目である。学校生活の大半を占める授業時間は、児童・生徒にとって大きな役割と意味を有している。特に分りにくい授業は、本人にとって苦痛であり、さらに、授業でのつまづきによって学ぶ意欲を失い、学校嫌いや不登校の主な原因になっている。教師の実践力が日常的にも発揮される場面は授業である。「授業論」は、主体的・対話的で深い学びを実現するため、実践的指導力のある教師を目指す、授業を行う上での基本的な事柄を学ぶ。	(1)授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能をもって指導することができる。 (2)学習課題の設定や探究的なプロセスの重要性を理解し、指導に生かすことができる。 (3)主体的・対話的で深い学びの重要性を理解し、授業を実践することができる。 (4)ICTの活用方法を理解し、教育活動に生かすことができる。														
EDS-341	アジア史Ⅲ	講義	2	1	○	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。東アジアの歴史の展開を時間軸に沿って把握した後、さらに特定の時代の歴史的事象について追究していく。また、その時代に生じた思想とその歴史的展開や現代との関係について検討をする。	(1)東アジアの歴史について基本となる情報を十分に把握した上で、現代とのつながり理解することができる。 (2)東アジアの歴史の展開の中で生じた思想とその現代に至るまでの影響について理解することができる。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特に東アジア史に関する知識)を身につけている。														
EDS-243	アメリカ史	講義	2	1	○	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。「一般的包括的内容を含む科目」として、アメリカ合衆国の歴史を世界との関係のなかで検討していく。扱うテーマは、資本主義世界のなかでのアメリカ合衆国の発展、軍事・政治・経済的な世界進出、人種関係など多岐にわたる。各テーマを通じて、合衆国がいかにして「世界のモデル」を提供してきたのかを、批判的かつ多角的に検討していく。また、本授業では、「歴史事項を覚える」ことよりも、歴史事項が社会に与えた影響など、思考力の養成に重きを置く。	(1)資料の読解を通じて、歴史的な事象を論理的に思考する力を身につけ、アメリカ合衆国の歴史を世界との関係のなかで考察できる。 (2)国民国家形成の歴史を理解し、説明できる。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にアメリカ史に関する知識)を身につけている。														
EDS-244	ヨーロッパ史	講義	2	1	○	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー5に基づく科目である。「一般的包括的内容を含む科目」として、ヨーロッパの歴史を俯瞰する。ヨーロッパは常に「統合」を志向しつつ、「多様」も許容してきた点で独特な歴史をもつ地域である。さらに、これらの特徴的な出来事やその影響は、ヨーロッパ地域にとどまらず、世界規模の歴史事象や価値観を生み出している。政治史を中心としつつ、ヨーロッパ歴史事象をふまえて、そうした特徴・特質を論じていく。中等・高等学校の教員として、生徒の「生きる力」の育成に必要な実践的資質と技能につながる「世界史」「ヨーロッパ史」の専門的知識を学ぶ。	(1)ヨーロッパの歴史伝統の特徴に関する専門的知識を身につけ、ヨーロッパの歴史事象の特質を基礎に、古代から現代までのヨーロッパの歴史を俯瞰できる。 (2)高校世界史の図説を使いこなして、ヨーロッパの歴史上の事象を説明できるだけの主体的学習力・言語表現力を身につけている。 (3)社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識(特にヨーロッパ史に関する知識)を身につけている。														
EDS-331	中学校教育実習(事前事後指導を含む)	実習	5	3	○	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。中学校教諭一種免許状の取得を希望する者、または、中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状の両方の取得を希望する者を対象とする。本科目は実習校における教育実習と、その事前指導・事後指導から構成される。中学校教員・高等学校教員に必要な能力を身につけるべく、事前指導では教育実習生に求められる心得や態度について学ぶだけでなく、模擬授業を通じて教材研究・学習指導案づくり・授業展開などを実践的に学ぶ。教育実習では3週間に渡り、実習校で観察実習・授業実習等を行う。事後指導では、各自の経験の報告・反省・討論を通して、その成果を検証・確認する。講義および模擬授業では、教科教育学の立場、現職経験者の立場からそれぞれ指導・講評を行う。	(1)事前指導では教育実習生に求められる資質や態度を習得し、教育実習に対する自信を高めることができる。また、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開の技能を身につけている。 (2)事後指導では、各自の経験の報告・反省・討論により、教職に対する展望をもつことができる。 (3)授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能(ICTの活用を含む)をもって指導することができる。 (4)教科等に関する専門的知識を有し、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。														
EDS-332	高等学校教育実習(事前事後指導を含む)	実習	3	3	○	教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシー7に基づく科目である。高等学校教諭一種免許状のみの取得を希望する者を対象とする。本科目は実習校における教育実習と、その事前指導・事後指導から構成される。中学校教員・高等学校教員に必要な能力を身につけるべく、事前指導では教育実習生に求められる心得や態度について学ぶだけでなく、模擬授業を通じて教材研究・学習指導案づくり・授業展開などを実践的に学ぶ。教育実習では3週間に渡り、実習校で観察実習・授業実習等を行う。事後指導では、各自の経験の報告・反省・討論を通して、その成果を検証・確認する。講義および模擬授業では、教科教育学の立場、現職経験者の立場からそれぞれ指導・講評を行う。	(1)事前指導では教育実習生に求められる資質や態度を習得し、教育実習に対する自信を高めることができる。また、模擬授業を通して教材研究・学習指導案づくり・授業展開の技能を身につけている。 (2)事後指導では、各自の経験の報告・反省・討論により、教職に対する展望をもつことができる。 (3)授業を成立させるための要件(学習課題、板書、発問等)を理解し、基礎的な技能(ICTの活用を含む)をもって指導することができる。 (4)教科等に関する専門的知識を有し、教材の内容を分析・解釈し、適切な授業準備をすることができる。														
EDS-112	生徒指導論(中等)	講義	2	2	○	現代の社会は、あらゆる社会通念・社会構造が解体・流動化しつつある「後期近代」の時代に突入しており、とりわけ生徒指導や教育相談の文脈においては児童生徒の特性や背景情報などを適切に把握し、丁寧な対応を施す必要性が格段に高まっている。そこでこの授業では、始めに生徒指導や教育相談の重要性や原理を確認し、適切な理解と配慮が求められる各教育的な事象について取り上げていく。そして、複雑化する教育現場において教師に求められる役割や、対応の方策を併せて紹介・検討していく。	(1)学校における生徒指導上の課題を理解することができる。 (2)公平かつ受容的・共感的な態度で子供と関わることができる。 (3)教育相談の意義、基本的な理論や技法を理解することができる。 (4)それぞれの児童生徒が有する特性や課題などを適切に把握し、丁寧な対応・配慮をおこなうことができる。 (5)教育現場にて求められる教師の役割や、生徒指導の方策を考察することができる。														
EDS-114	教育相談(中等)	講義	2	2	○	教育相談は、一人ひとりの児童の教育上の問題について、本人又はその親などに、その望ましいあり方を助言することである。その方法としては、1対1の相談活動に限ることなく、すべての教師が児童に接するあらゆる機会を捉え、あらゆる教育活動の実践の中に生かし、教育相談的な配慮をすることが大切である。授業では、カリキュラム・ポリシーにおける、教育の実践的指導力などの高度な資質と能力に関わる内容を扱い、教育相談の基礎的内容として、教育相談の意義と学校における教育相談体制、児童生徒理解のための発達心理学及び臨床心理学の知見を講義する。また、教育相談のための基礎的面接技法や授業を通しての教育相談の実践技法について、グループワークと演習・実習を通して学ぶ。さらに教育相談の事例をディスカッション、グループワークを通して学ぶ。	(1)教育相談の意義、内容、方法を説明することができる。 (2)児童生徒を理解するための基礎知識として、児童期青年期の発達の特徴を説明することができる。 (3)教育相談の基本的技法を理解し、遂行することができるようになる。														

常盤大学 人間科学部 教育学科 中等教育コース 履修系統図(表形式)【ディプロマ・ポリシーと各授業科目の対応関係について】

学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連(学修成果のために、●=特に強く求められる事項、◎=強く求められる事項、○=望ましい事項)

授業科目の区分	授業科目名	授業の方法	単位数・必修	学年	学期	サブタイトル/テーマ	授業科目の主題 (授業科目の中心となる題目・問題・テーマ等)	学生の学修目標 (到達目標)	学修の到達目標とディプロマ・ポリシーの関連									
									1	2	3	4	5	6				
カリキュラム分類コード	EDS-123 教育方法学Ⅱ(中等)	演習	2	2-3-4	○		カリキュラム・ポリシーにもとづき、教育に携わるもの求められる教育方法学について学ぶ。現代の教育方法学の基礎にある「学習の科学」の多様な知見を学び、その授業づくりとしての実践的活用について学ぶ。受講生各自が関心ある「学習科学」の理論を取り上げ報告し、討論するなどアクティブラーニングを基調に学ぶとともに、授業づくり・教育方法に関する小論文を作成する。	社会人あるいは教員として、教育方法学について以下の資質・能力の育成に寄与することを目指す。 (1)「学習科学」の諸理論を理解する。 (2)「学習科学」を踏まえた授業づくりの視点を理解する。 (3)授業づくり・教育方法について小論文を作成できる。	●									
	EDC-111 教職入門	講義	2	1-2	○		・本授業は、中学校および高等学校の教員免許状の取得を目指す学生を対象に、教職についての理解を深めることを目的とした入門科目です。 ・カリキュラム・ポリシーに基づき、教員として必要な資質を養うとともに、生徒の「生きる力」を育むための基礎的な知識の獲得を通じて、自己教育力、思考力、判断力や表現力を養う科目です。	(1)教員という職が誕生した歴史的・社会的背景や、教員の養成・採用・研修をめぐる現代的動向といった教職を取り巻く政策的・制度的状況など、教育および教職をめぐる基礎的な知識を修得している。 (2)教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。 (3)「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質の向上に関する指標」における採用時の姿として以下の項目が体现できる基礎的な知識・理解・思考・判断・態度を修得している。 【社会人として】 (1)人間性が豊かで、言葉遣い、あいさつ、礼儀等の備えておくべきマナーをもって行動することができる。 (2)人権に関する知的理解があり、人権感覚を持って行動することができる。 (3)常にコンプライアンスを意識して行動することができる。 (4)コミュニケーション力を生かし対人関係を構築することができる。 (5)ストレスと身体の健康を適切に自己管理することができる。 (6)多様な文化の生活・習慣・価値観を尊重することができる。 【教員として】 (1)子供が好きで、子供とともに考え、子供の気持ちを理解することができる。 (2)自己の現状と課題を知り、他の教員の指導や意見に耳を傾け、学び続けることができる。 (3)保護者や地域の声に耳を傾け、誠実に対応することができる。 (4)学校教育に関する法令等と学校の役割を理解することができる。	●									
	EDC-112 教育学概論	講義	2	1	○		・子どもが人として生まれ、人間として形成されていく過程で、大人・教育者はどのような役割を担うべきか、また、社会は社会的存在としての人間の形成にどのように関わるべきか、こうした課題を、人間の発達、教育の目的、内容、方法、制度的・組織的原理等に関わる基礎理論・基本概念をふまえながら、多面的に考察する。 ・第1～7回講義(上田誠二担当)は、日本教育史における理論と実践を中心に講義し、それを受けて第8～15回講義(平井悠介担当)では、そもそも西洋近代に誕生した公教育制度の理念とは何だったのかを問い、その展開過程を跡づける。総じて、西洋の公教育制度が近代以降の日本に移植され展開した過程を検討することにより、現代公教育の可能性と課題について把握する。可能な限り対話と討議を組み込むため、受講生は計画に示された各テーマについてあらかじめ問題関心を深めておくことが求められる。 ・教育の原理を社会と歴史との関係の中で多面的に理解する本授業の内容は、「人間とは何か」という根源的な問いに関わるものであり、広い視野から人間や人間社会を理解していくための基礎を受講者が修得することを旨とする授業である。そのため、意見共有やディスカッション等が適宜盛り込まれ、多様な見解を理解する機会が含まれている。	(1)人間形成に関わる教育の諸要素が相互にどのように関連しているかを論じることができる。 (2)人間の発達の助成としての教育の可能性と限界について、現代の社会状況との関連をなかで、論じることができる。 (3)現代教育に対する近代教育思想の有効性について考察し、論じることができる。 (4)近代教育思想に根ざす歴史についての基礎的な理解を示すことができる。 ・これらの到達目標は、教育に関わる諸問題を自ら発見し、批判的に考え、多面的な思考と分析によつて的確な判断を下すことのできる人材像に密接に関わる。さらに、多様な文化の価値観を尊重できる社会人、学校の役割を理解するとともに子どもの実態を理解し教育活動に従事できる教員像に密接に関わっている。広くは、以下が具体的な到達目標となる。 【社会人として】 (1)人間性が豊かで、言葉遣い、あいさつ、礼儀等の備えておくべきマナーをもって行動することができる。 (2)人権に関する知的理解があり、人権感覚をもって行動することができる。 (3)常にコンプライアンスを意識して行動することができる。 (4)コミュニケーション力を生かし対人関係を構築することができる。 (5)ストレスと身体の健康を適切に自己管理することができる。 (6)多様な文化の生活・習慣・価値観を尊重することができる。 【教員として】 (1)子供が好きで、子供とともに考え、子供の気持ちを理解することができる。 (2)自己の現状と課題を知り、他の教員の指導や意見に耳を傾け、学び続けることができる。 (3)保護者や地域の声に耳を傾け、誠実に対応することができる。 (4)学校教育に関する法令等と学校の役割を理解すること	●									
	EDC-114 学校と教育の歴史	講義	2	1-2-3-4	○		幕末維新期、日本は欧米列強からの圧力を受けて、国民国家の建設を急速に推進する。従来の人間形成のあり方は異なる「教育」という営みは、近代化が進化するこの時期に成立する。そして19世紀に制度化された教育システムは、20世紀における二つの世界大戦を経て、現代的なものへ改編されていく。本講義では、「教育」と「学校」が成立、展開していく過程を、関連する制度の動向とともに概説する。それを通じて、学生は自身の経験を省察し、多面的に考える視点を身につける。	(1)「教育」と「学校」が成立、展開していく過程を、その背景とともに的確に理解し、論理的に説明することができる。 (2)現代の「教育」や「学校」について、歴史的な省察を通じて多面的に思考し、自分の考えを他者に対して述べることができる。	●									
	EDC-115 教育心理学	講義	2	1-2-3-4	○		カリキュラム・ポリシーにある「幼児、児童、生徒の成長と発達の深い理解」のために、心身の発達及び学習の過程に関わる基礎的な内容を学習する。乳幼児期から青年期にわたる発達の過程の理解、学習の諸側面の理解、社会・集団の心理学の理解は重要になってくる。さらには、定型発達の理解と合わせて発達障害の理解も必要である。このように、発達心理学、学習心理学、社会・集団心理学、臨床心理学の理論を修得することによって、効果的な学習指導や生徒指導実践の前提として、適切な発達観、児童生徒観、学習指導観を涵養することとする。	(1)乳幼児期、児童期、青年期の発達の特徴を説明することができる。 (2)学習、記憶、動機づけに関わる基本的内容を理解することができる。 (3)児童生徒理解のための心理学的方法を理解することができる。 (4)集団に関わる心理学的知見を理解することができる。 (5)発達障害の特徴とその心理的支援の方法について理解することができる。 さらに茨城県教育委員会「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質の向上に関する指標」に対応した教育心理学の目標を加える。 (6)子供の心身の発達に関する知識があり、子供の理解に生かすことができる。 (7)法で示すいじめの定義及びいじめはどの子供にも、どの学校でも、起こりうる、ということを理解することができる。	●									
	EDC-116 教育経営論	講義	2	2-3-4	○		カリキュラム・ポリシーにもとづき、以下の内容で行う。すなわち、学校教育制度と教育委員会制度の基本的な理解を中心としながら、学校経営及び教師の抱える諸課題について考えることを通じて、「開かれた学校」としての学校教育を全体像として探究することを目的とする。また、教育法規の構造や教育制度の歴史について資料等で確認し、基本的な知識を得るとともに、ビデオ(教育・学校改革等)を見て、受講者のなかで共通認識をつくる時間も設ける。	(1)わが国の教育制度の基本的な内容を中心に理解を深めることができる。 (2)教育委員会や学校における具体的な内容を通じて、教育制度を理解できる。 (3)教育制度を固定的に捉えるのではなく、その起こりや変容に着目できる。 (4)学校の組織や経営に関して理解を深めることができる。 (5)学校組織の特徴や協働する意義を理解することができる。 (6)大学等におけるサークルや団体活動等の運営に主体的に関わることができる。	●									
	EDC-117 教育社会学	講義	2	1-2-3-4	○		教育学科中等教育コースのカリキュラム・ポリシーおよび「教職課程コアカリキュラム」に基づき、教育活動を担うにあたり必要となる基本的な資質・素養および高度専門職としての教育者に求められる力を身につけることを目的として、現代の教育に関する社会的・制度的状況およびその課題について検討するとともに、地域と学校の連携・協働、学校安全・安全教育のあり方について検討します。	教職課程コアカリキュラム」および「茨城県公立の小学校等の校長及び教員の資質の向上に関する指標」に基づき、 (1)社会の状況およびその変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題並びにそれに対応するための教育政策の動向について理解し、考察することができる。 (2)現代公教育制度の意義・原理・構造にみち、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともにそこに内在する課題について理解し、考察することができる。 (3)学校組織の特徴や協働する意義を理解することができる。 (4)大学等におけるサークルや団体活動等の運営に主体的に関わることができる。 (5)安全管理に関する基礎的知識をもち、子どもの安心・安全を常に意識し、対応することができる。 ことを目標とします。	●									
	EDS-122 教育方法学Ⅰ(中等)	講義	2	2-3-4	○		カリキュラム・ポリシーにもとづき、これからの社会になう生徒に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法・技術・情報機器・教材の活用等に関する基礎的な知識と技能を身につけるために、教育方法の基礎理論、新学習指導要領における教育方法改善の視点、現代の教授・学習論、教育評価論、ICTの活用、学習指導案の作成に関する最新の理論とその活用法について、アクティブラーニングを基調に学ぶ。	社会人あるいは教員として、教育方法学について以下の資質・能力の育成に寄与することを目指す。 (1)中等教育になう教師として必要不可欠な教育方法の基礎理論と実践を理解する。 (2)新学習指導要領で強調されている授業改善の視点：「主体的・対話的で深い学び」の在り方を理解し実践する技能を習得する。 (3)学習評価の理論と手法、ICTの活用の最新の理論と手法を習得する。 (4)教育方法に関連した中等教員採用試験対策にもなり得る知識と技能を習得する。	●									